

Pet Industry Trade Magazine ペットページ

Petpage

企業プロフィール
「ペットビジネスの可能性を開拓したい」
「東南アジアのペット創世記を経験して」

金魚と錦鯉をアートに演出

2013



フロンティア精神の豊かな企業がある。それは起業から持ち続けている創業者の理念の証である。

ペットビジネスの可能性を開拓していきたく。

株式会社クハラ

中国へ進出する企業は数多い。海外での事業は、国内と比べて、文化や民度の違いもあってリスクが大きい。特に中国では、巨大マーケットの草狩り場の様相を呈している、諸外国の多くの企業も参入、成功例となるためには、新興の中国企業を加えたタフな競争に勝ち抜かなければならない。

中国では海外から製品を輸入することは、各種の規制があつて容易ではない。その中であつて、キャットフード缶詰の輸入が認められ、正規ルートで中国の主要都市のデパート売

尚代表取締役。本社・山口県下関市のキャットフード缶詰である。平成18年、中国でのネコ市場の拡大を察知してキャットフード缶詰、通称・猫缶の輸出を始めた。中国での輸入許可証の申請は、世界中の企業が大半して参入する前の北京オリンピック開催前。登録されると、主要な売り場で販売可能で、広報活動も可能となる。平成18年に中国遼寧省大連に事務所を開設、中国市場において本格的な取組みを始めた。



久原社長。左下に飾られた写真は、安倍首相とのツーショット。首相就任前に同社を訪れた時に撮影。

パート売
り場に並
ぶ日本企
業の製品
がある。
株式会社
クハラ
(久原 木)

同社は「グローバルな視点で、新しいペットライフを提案。品質こそ最大のビジネス」を企業コンセプトとして、昭和45年に創業以来、観賞魚用品、ペットフード(犬、猫、小動物用)の企画開発、製造、販売を手がけてきた。



国際化が急速に進む中で同社では、外国企業とのネットワークは重要なキーワードとしていち早く海外との提携先を探していた。その第一はタイの猫缶を生産する契約工場である。200海里問題やオイルショックでカツオ・マグロの漁獲規制、原料値上げによって、国内の猫缶の供給に不安が出始めていた昭和55年、同社独自のルートによって契約工場として提携にしたものである。国内のペットフードメーカーも海外に猫缶の生産拠点を探していた頃で、同社を含めて猫缶という有望市場に目をつけてのことだっ

た。

このタイ缶詰工場との取引は継続中で、この工場から中国市場に供給されているが、安価な中国製との競争について、「中国産よりも3倍高

いが、高品質な商品に對するニーズが高くなっていて、タイ産とは言え、日本の技術、ノウハウで生産された猫缶には信頼が厚く、好評を得ていると思う。」

同社は現在、アジア地域においてタイ、中国、韓国の3カ国6社の企業とパートナーシップを保ち、これらの会社グローバル事業の海外拠点となっている。なお韓国の水槽メーカーとの取引は約30年続いている。また、平成15年には、韓国ソウルに事務所を開設した。

国内における同社の事



タイの契約工場生産して、日本、中国向けに供給している12種類の猫缶。韓国の契約工場製造の他、同社取扱の観賞魚用品。

平和で心ゆたかな社会の創造に貢献していきたくと久原社長。